

## 「長引く咳について」

平成 26 年 4 月放送

大門 和

「長引く咳の患者さんは、発病してから早い時期にはなるべく診たくない」というのが医者の本音です。その理由をご説明するところから始めましょう。長引く咳は、そう簡単には診断がつかず、また治りにくいからです。しかも、ほとんどがいつしか自然に治ってゆくので、最後に診た医師が名医だと思われたりします。しかし、これは過去の事。せつちな現代社会において、これでは患者さんも納得しませんね。そこで今日のお話です。長引く咳とは、医学的には「2ヶ月以上続く咳」のことを言います。1週間でも待てない方が殆どでしょうから、勿論これにこだわる必要はありません。それでは、長引く咳の原因として、どんな病気があるのでしょうか？

まず、副鼻腔炎が原因の場合も少なくありません。痰が多く、鼻水・鼻づまりや鼻水が喉に下がってきたり張り付いた感じがします。抗生物質を多少長い期間服用する必要があります。「百日咳」も長引く咳の原因となります。子供の病気と思われがちですが、最近は過半数が大人の百日咳です。顔が赤くなるほどの激しい咳込みの発作があつて、喉の痰がとれると楽になる、という症状を

繰り返します。咳が辛くて病院に行く頃には咳止めも十分に効かないので医者も困りますが、文字通り百日ほどで自然に咳はおさまっていきます。感染力が強いので、ご家族や職場の方にうつさないようにマスク手洗いが必要です。最近は、ほこりアレルギー



一などによって発症する「咳喘息」も少なくありません。喘息の治療薬がよく効きます。将来本当の喘息に変わってゆくこともあるので、繰り返す場合は、喘息治療を止めずに続けます。夜寝ている時に胃酸が食道や喉に逆流するため、「逆流性食道炎」も長引く咳の原因となります。胃酸をおさえる薬がよく効きます。意外に思われるかもしれませんが、一番多いのは風邪のあとの長引く咳です。厄介なのは、特効薬が無いこと。それこそ自然におさまってくる時期を待つしかありません。ただし、この期間は気管支粘膜が弱くなっており、ほこりの多い環境で過ごすと、喘息を発病することもありますから、やはり養生は必要です。その他、肺がんや肺結核なども、時に長引く咳の原因となりえますので、いずれにしても 2 ヶ月以上続く咳は、必ずかかりつけ医に相談することが大切です。